

## 第2節 健康水準

### 1. 人口の推移

本市の総人口及び年齢階層別人口、世帯数の推移は〈表 2-2-1〉のとおりです。平成 17 年 10 月 1 日現在の人口は 290,867 人、世帯数は 108,697 世帯です。老年人口(65 歳以上)は、年々増加して、平成 17 年は 20.6%ですが、年少人口(15 歳未満)は、年々減少し、平成 17 年は 14.7%となります。

平成 17 年 10 月 1 日現在の年齢(5 歳階級)、男女別総人口構成は〈図 2-2-1〉のとおりです。

出生数及び出生率の年次推移は〈図 2-2-2〉のとおり、年々低下しており、平成 16 年の出生数は 2,519 人で、出生率は 8.6 です。

合計特殊出生率<sup>1</sup>は〈表 2-2-2〉のとおりで、平成 16 年は 1.31 で、平成 11 年の 1.55 から低下しています。

〈表 2-2-1〉 総人口及び年齢階層別人口、世帯数の推移(各年 10 月 1 日現在)

単位:人、世帯

分 年	人口			年少人口 (15 歳未満)	老年人口 (65 歳以上)	世帯数
	男	女	計	構成比	構成比	
平成 2 年	134,593	142,935	277,528	53,704 19.4%	34,074 12.3%	89,068
平成 7 年	138,417	147,337	285,754	48,958 17.1%	43,423 15.2%	97,483
平成 12 年	141,000	150,121	291,121	45,960 15.8%	52,172 17.9%	104,553
平成 17 年	139,991	150,876	290,867	42,730 14.7%	59,480 20.6%	108,697

〈資料: 国勢調査〉

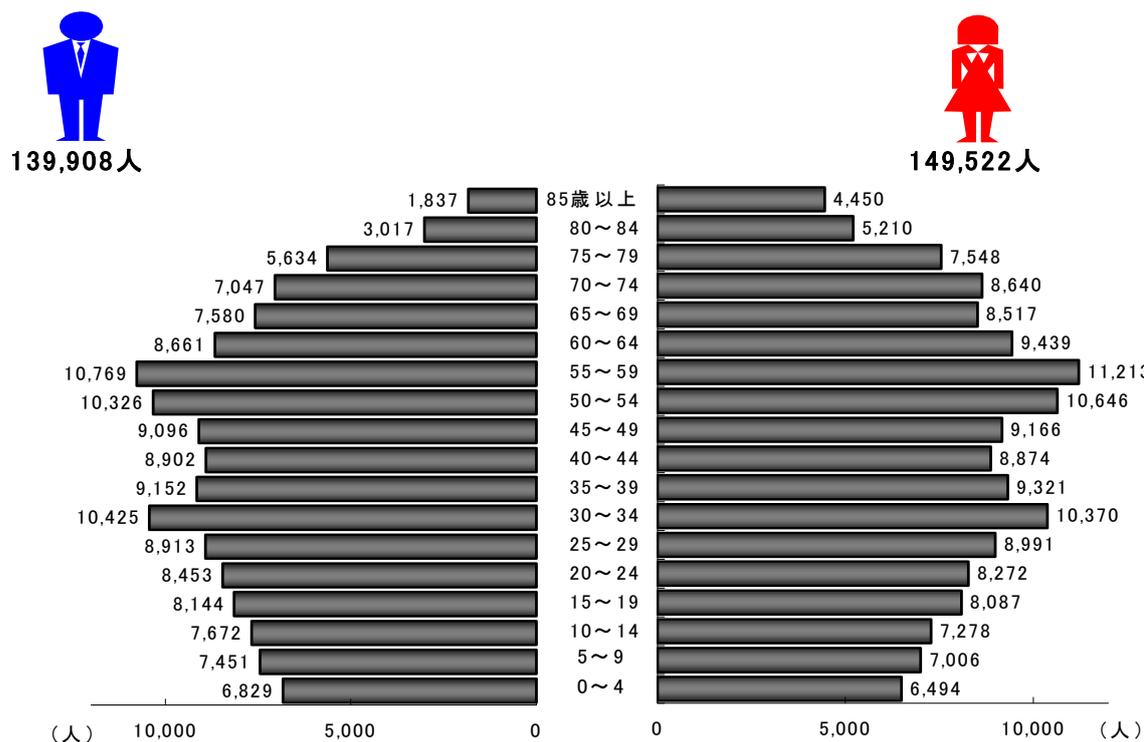


<sup>1</sup> 『合計特殊出生率』: 15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを産むとした場合の平均の子どもの数です。

<sup>2</sup> 「国勢調査: 福島に居住する全ての人(外国人を含む)」、「市民課人口: 福島に住民登録をする日本人」

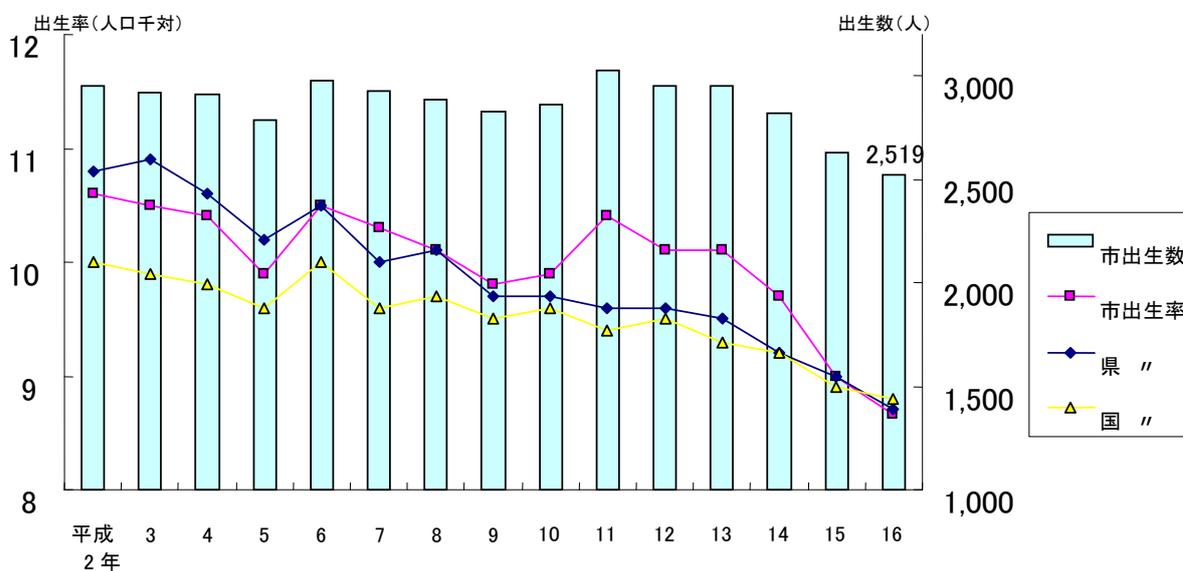
〈図2-2-1〉 年齢(5歳階級)、男女別総人口構成

(平成17年10月1日現在)



資料:福島市市民課

〈図2-2-2〉 年次別出生数及び出生率



〈資料:国県「国民衛生の動向」、市「福島市人口動態調査」〉

〈表2-2-2〉 合計特殊出生率の年次推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
福島市	1.55	1.50	1.50	1.50	1.35	1.31
県	1.63	1.65	1.60	1.57	1.54	1.51
国	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29

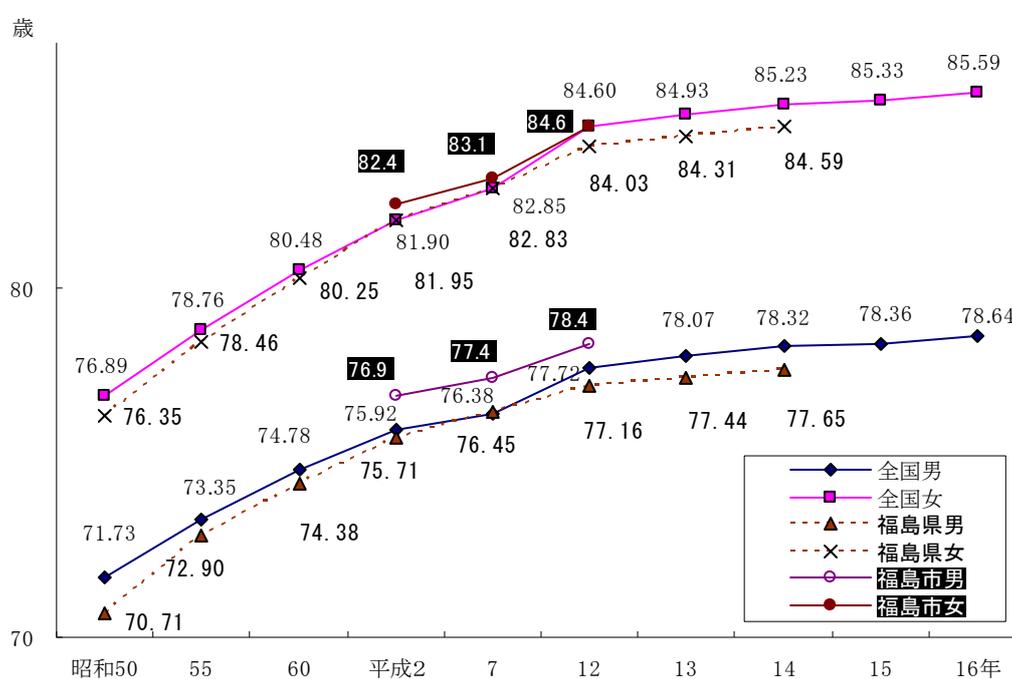
〈資料:国県「国民衛生の動向」、市「福島市人口動態調査」〉

## 2. 平均寿命と健康寿命<sup>1</sup>

平均寿命の推移は〈図 2-2-3〉のとおりで、平成 12 年は男性が 78.4 歳、女性が 84.6 歳です。

平均余命と健康寿命については〈表 2-2-3〉のとおりです。65 歳健康寿命は、男性が 15.9 歳、女性が 18.6 歳で、県の男性 15.8 歳、女性 18.8 歳と比較すると男性は長く、女性は短い状況です。介護を要する期間については、男性 1.6 年、女性 3.5 年で、県の男性 1.4 年、女性 3.1 年と比較すると長い状況です。この理由としては、算出方法が介護保険制度を利用していることから、本市の介護保険認定者が県の状況より多いことが上げられます。

〈図 2-2-3〉 平均寿命の推移



〈資料：福島県保健統計の概況〉

〈表 2-2-3〉 平均余命と健康寿命（単位：年）

区分	男性	女性
0 歳平均余命（平均寿命）	77.7（福島県：77.4）	84.2（福島県：84.1）
65 歳平均余命	17.5（福島県：17.3）	22.1（福島県：21.9）
65 歳健康寿命	15.9（福島県：15.8）	18.6（福島県：18.8）
介護を要する期間	1.6（福島県：1.4）	3.5（福島県：3.1）

\* 切明義孝「介護保険制度を利用した健康寿命計算」平成 12~16 年の死亡者数と平成 14 年の年齢別人口、年齢別介護保険被保険者数、受給者数より算出。  
 〈資料：県北保健福祉事務所〉

<sup>1</sup> 『健康寿命』：寿命の「質」を考える一つの指標。高齢者が痴呆や寝たきりにならない状態で介護を必要とせずに生きられる期間（平均自立期間）と位置づけている。

### 3. 主要死因

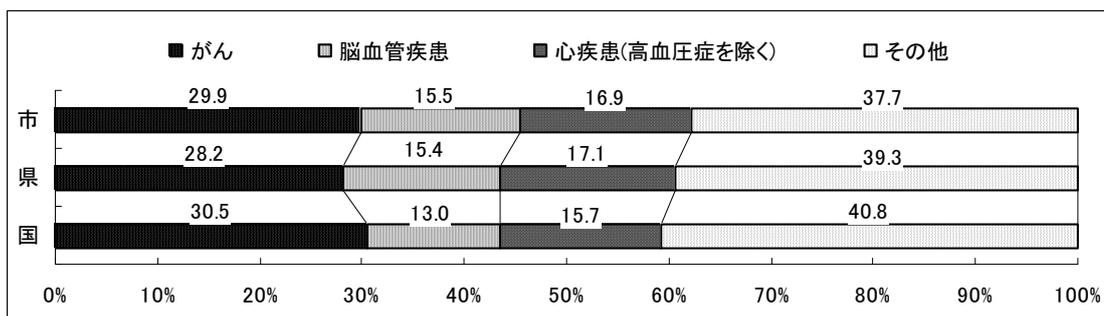
三大死因の死亡割合は〈図 2-2-4〉のとおり、「がん」が 29.9%で最も多く、次いで「心疾患（高血圧を除く）」が 16.9%、「脳血管疾患」が 15.5%です。これらの三大死因は、全死因の 62.3%を占めています。

また、壮年期における三大死因の死亡割合は〈図 2-2-5〉のとおり、「がん」が 39.9%で最も高く、次いで「心疾患（高血圧を除く）」が 14.4%、「脳血管疾患」が 11.7%です。

三大死因別標準化死亡比（SMR）<sup>1</sup>は〈表 2-2-5〉のとおりです。平成 10～14 年の 5 年間の状況をみると、男女ともに「大腸がん」と「心疾患」がやや高い状況です。

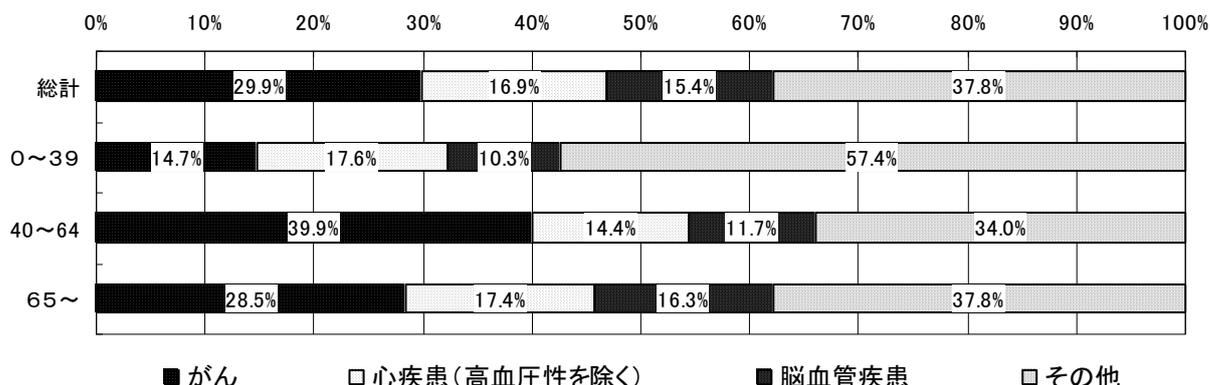
部位別がん死亡率は〈図 2-2-6〉のとおりで、平成 15 年の男性の部位別では「気管・気管支及び肺」が 65.9、「胃」が 56.0、「肝及び肝内胆管」が 26.2 の順で高く、女性では「胃」が 26.1、「結腸」が 20.7、「気管・気管支及び肺」が 18.0 となります。平成 11 年と 15 年の死亡率を比較すると、男性は「食道」を除く全てにおいて、平成 15 年死亡率が上昇しています。女性は「食道」、「結腸」、「直腸 S 状結腸移行部及び直腸」、「肝及び肝内胆管」、「胆嚢及びその他の胆道」において、平成 15 年死亡率が上昇しています。

〈図 2-2-4〉 三大死因（がん・心疾患・脳血管疾患）の死亡割合【全年齢】【平成 15 年】



〈資料：福島市人口動態調査〉

〈図 2-2-5〉 三大死因（がん・心疾患・脳血管疾患）の死亡割合【壮年期】【平成 15 年】



〈資料：福島市人口動態調査〉

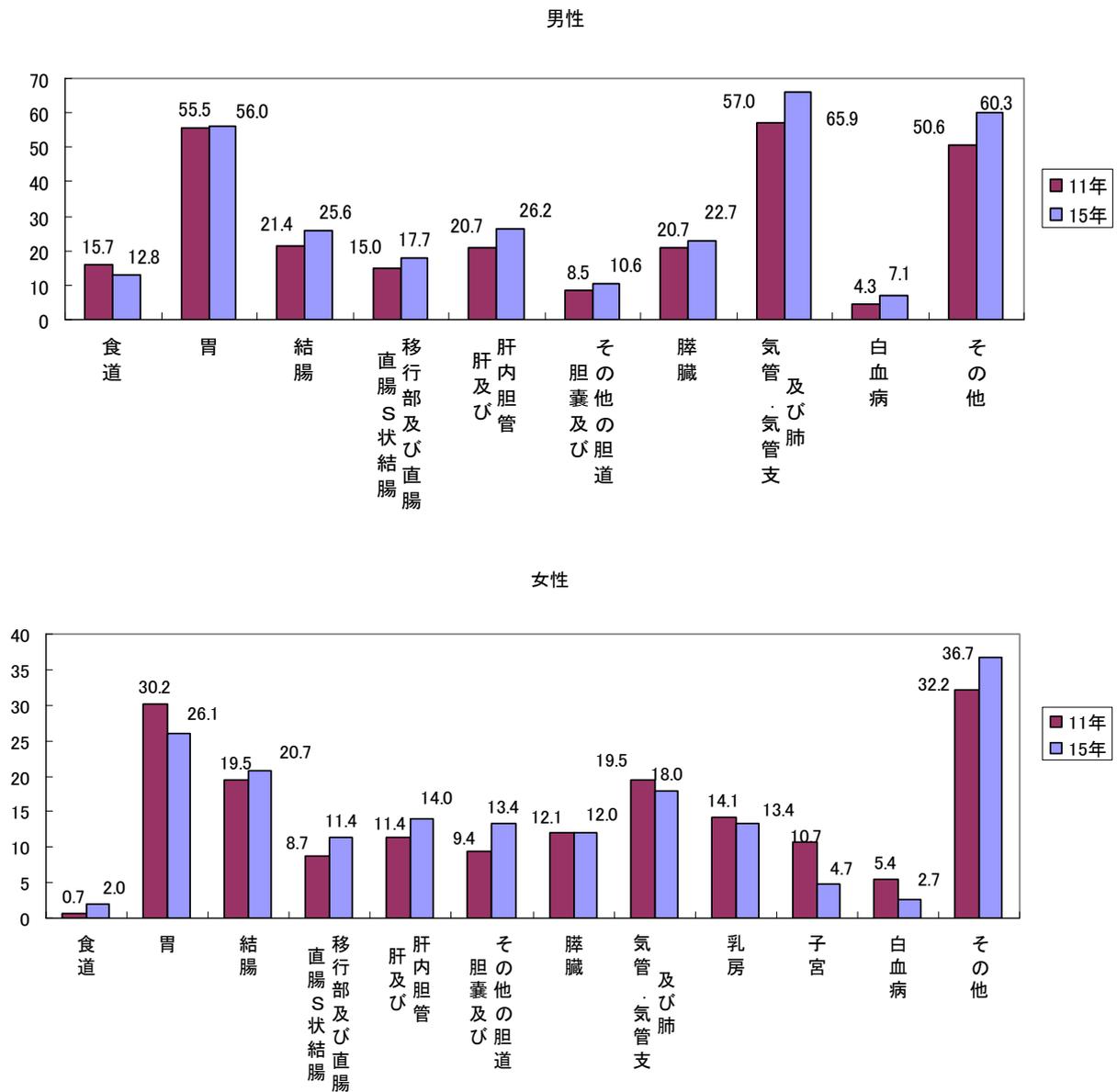
<sup>1</sup> 『標準化死亡比（SMR）』：年齢構成の異なる集団間の死亡状況を比較する指標の 1 つである。基準集団の死亡状況が 100 で対象集団の SMR が 100 より大きい場合、その集団の死亡率は基準集団より高く、小さい場合は基準集団の死亡率より低いことを示す。

〈表 2-2-5〉 三大死因別標準化死亡比(SMR)【平成 10～14 年】

	がん		胃がん		大腸がん		脳血管疾患		心疾患	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全 国	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
県	99.2	97.8	108	104.7	102.9	101	114.1	117.3	108.8	104.6
福島市	91.3	97.7	98.3	102.2	103.5	123.5	102.4	98.3	110.5	105.9

(資料：厚生労働省大臣官房統計情報部)

〈図 2-2-6〉 部位別がん死亡率【平成 11 年・15 年比較】 (人口 10 万対)



#### 4. 要援護高齢者の現状

介護保険における介護認定件数は〈表 2-2-6〉のとおりです。平成 17 年 3 月末現在で、第 1 号被保険者(65 歳以上の被保険者)は 58,828 人、そのうち認定者は 9,003 人で 15.3% です。また、毎年 10 月実施の高齢者調査における要援護高齢者の年次推移は〈図 2-2-7〉のとおりで、虚弱高齢者や認知症高齢者は増加しています。寝たきりになった原因は〈図 2-2-8〉のとおりで、脳血管疾患、転倒・骨折、老衰などが主な原因です。

〈表 2-2-6〉 介護認定件数 (実人数)

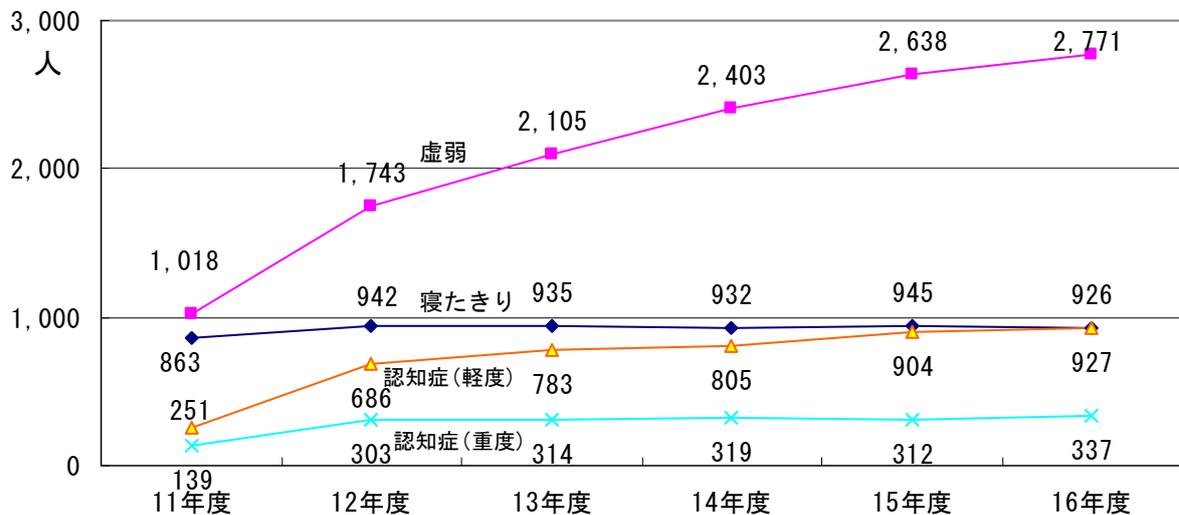
(平成 17 年 3 月末現在)

年齢構成	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	高齢者人口比
第1号被保険者	1,051	2,955	1,564	1,281	1,090	1,062	9,003	15.3%
65歳以上75歳未満	177	435	317	193	165	176	1,463	2.5%
75歳以上	874	2,520	1,247	1,088	925	886	7,540	12.8%
第2号被保険者	16	100	75	67	39	56	353	0.6%
総数	1,067	3,055	1,639	1,348	1,129	1,118	9,356	15.9%
構成割合	11.4%	32.7%	17.5%	14.4%	12.1%	11.9%	100.0%	

※第 1 号被保険者:58,828 人、第 2 号被保険者:96,914 人

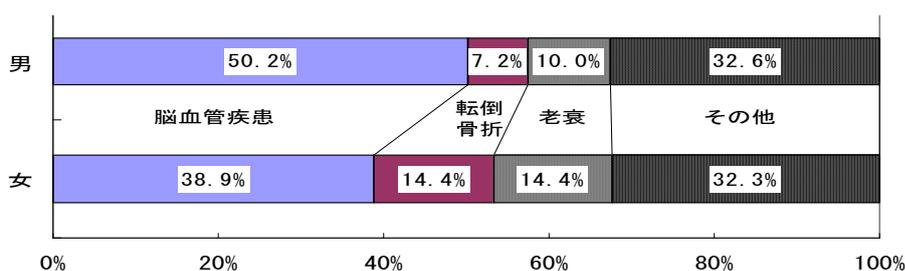
〈資料:福島市の福祉事業〉

〈図 2-2-7〉 要援護高齢者の年次推移



〈図 2-2-8〉 寝たきり原因

〈資料:福島市高齢者調査〉



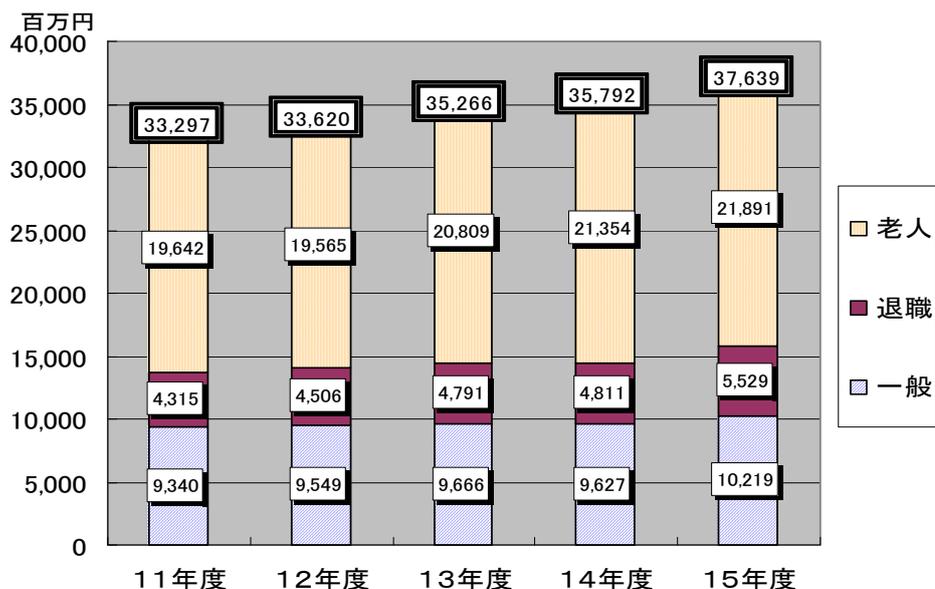
〈資料:福島市高齢者調査〉

## 5. 医療費の現状

国民健康保険医療費総額の推移は〈図 2-2-9〉のとおりで、年々増加しています。特に、老人医療費の増加が顕著です。

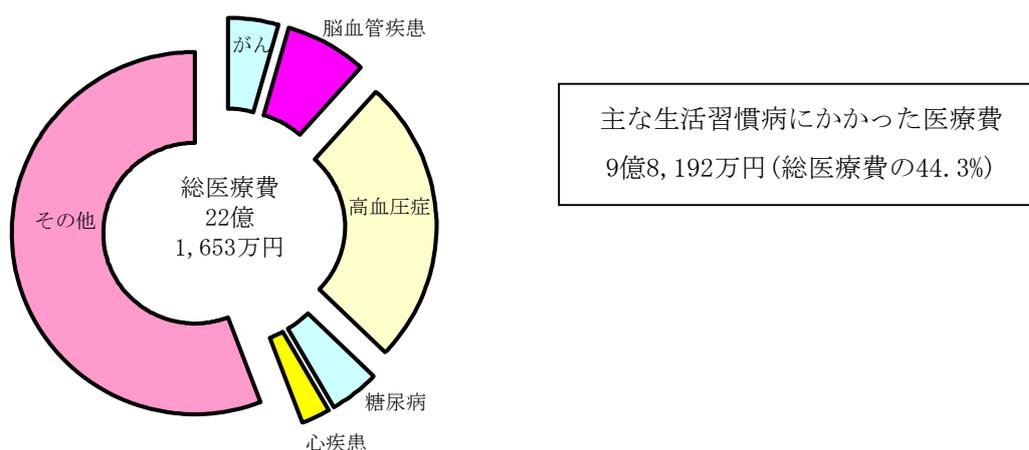
平成 16 年 5 月の国民健康保険医療費のうち、主な生活習慣病にかかった医療費は〈図 2-2-10〉のとおりで、44.3%を占めています。

〈図 2-2-9〉 国民健康保険医療費総額の推移



〈資料：国民健康保険疾病分類統計〉

〈図 2-2-10〉 主な生活習慣病にかかった医療費【国民健康保険医療費平成 16 年 5 月分】



〈資料：国保年金課〉

### 第3節 医療の現状

#### 1. 医療機関の現状

最近3か年間の医療機関の状況は〈表2-3-1〉のとおりです。病床数は、病院、一般診療所ともに減少しています。

〈表2-3-1〉医療機関の施設数・病床数

	施設数			病床数	
	病院	一般診療所	歯科診療所	病院	一般診療所
平成14年度	24	260	132	4,734	638
平成15年度	24	258	133	4,690	593
平成16年度	24	264	132	4,690	583

〈資料：福島県保健統計の概況〉

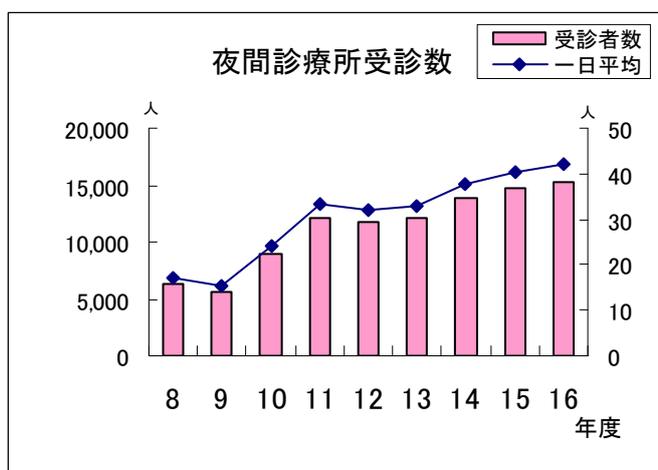
#### 2. 救急医療体制の現状

福島市医師会と福島歯科医師会の協力を得て、休日在宅当番医制の実施や夜間急病診療所・休日救急歯科診療所を設置し、初期救急医療の確保に努めています。

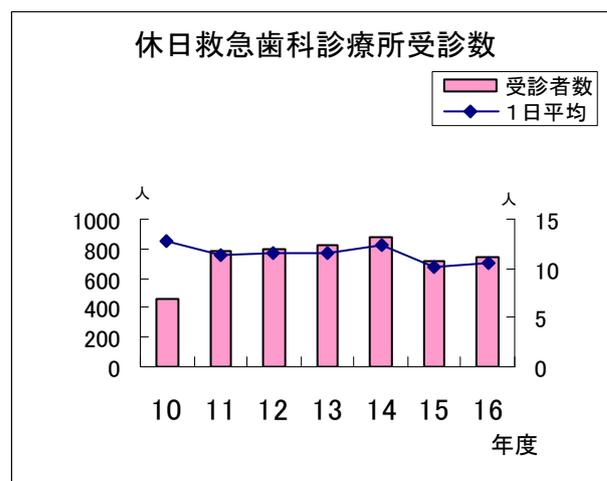
夜間急病診療所の受診状況は〈図2-3-1〉のとおりで、受診者数は、年々増加しています。また、休日救急歯科診療所の受診状況は〈図2-3-2〉のとおりで、受診者数は、ほぼ横ばいの状況です。

二次救急医療については、市内10病院による救急医療病院群輪番制<sup>1</sup>で対応しています。二次診療の診療件数については〈表2-3-2〉のとおりで、年々増加しています。

〈図2-3-1〉夜間急病診療所の受診状況



〈図2-3-2〉休日救急歯科診療所の受診状況



<sup>1</sup> 『救急医療病院群輪番制』：一次診療に対する後方医療機関として、休日昼間及び毎夜間における一次診療で治療できない患者を常時受け入れすることができるように輪番制で診療にあたる体制。

〈表 2-3-2〉 救急医療病院群輪番制

年度	区分	内科	小児科	外科	脳外科	整形外科	産婦人科	神経精神科	その他	計
12	入院	416	88	107	84	96	40	3	91	925
	外来	1,594	862	499	203	541	59	23	589	4,370
	計	2,010	950	606	287	637	99	26	680	5,295
13	入院	436	88	95	83	67	38	3	97	907
	外来	1,489	751	547	223	508	56	23	640	4,237
	計	1,925	839	642	306	575	94	26	737	5,144
14	入院	442	123	103	177	115	74	10	129	1,173
	外来	1,832	976	566	536	797	63	54	900	5,724
	計	2,274	1,099	669	713	912	137	64	1,029	6,897
15	入院	493	174	136	296	131	68	9	235	1,542
	外来	2,202	935	790	985	883	87	66	1,287	7,235
	計	2,695	1,109	926	1,281	1,014	155	75	1,522	8,777
16	入院	434	159	131	318	138	66	8	239	1,493
	外来	2,344	1,081	854	996	975	77	74	1,084	7,485
	計	2,778	1,240	985	1,314	1,113	143	82	1,323	8,978

### 3. 災害及び感染症発生時対策

災害時の対策については、福島市地域防災計画に基づき、体制の整備がなされています。自然災害による避難所設置状況は、〈表 2-3-3〉のとおりです。避難所においては、健康相談等を実施して市民の健康管理にあたっています。

また、感染症対策については、県と連携しながら、その知識や予防対策の普及啓発に努めています。

現在のところ、重大な災害や感染症は発生していませんが、今後は、県と連携を図り、健康危機管理体制を整備する必要があります。

〈表 2-3-3〉 自然災害による避難所設置状況

年 月 日	災害の概要	避難所設置数
昭和 61 年 8 月 5 日	台風 10 号による被害（総雨量 264mm）	9 箇所
平成 10 年 8 月 26 日～31 日	8 月末豪雨による被害（総雨量 334mm）	15 箇所
平成 10 年 9 月 15 日～16 日	台風 5 号による被害（総雨量 69mm）	4 箇所
平成 11 年 9 月 14 日～15 日	台風 16 号による被害（総雨量 165mm）	15 箇所

〈資料:福島市地域防災計画〉

## 第4節 市民検診の現状

市民検診受診数及び受診率の年次推移は〈表 2-4-1〉、〈図 2-4-1〉のとおりです。平成16年度の受診率は、基本健康診査が48.1%、胃検診が37.4%、大腸検診が33.2%で、年々増加しています。しかし、女性のがん検診の受診率は低く、子宮がん検診は10.9%、乳がん検診は11.9%という状況です。特に子宮がん検診は、対象年齢を30歳以上から20歳以上に引き下げましたが、20歳代の受診率は低い状況にあります。

その他の検診受診率は、骨粗しょう症検診が7.5%と横ばいの状況で、歯と歯ぐきの検診は、希望者申込制ですが受診率は60.3%です。

〈表 2-4-1〉 市民検診受診数及び受診率の年次推移

区 分		H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H 1 6	
基本健康診査	対象者数	72,111	73,179	73,528	74,223	75,991	
	受診者数	28,598	30,468	32,395	35,337	36,582	
	受診率	39.7	41.6	44.1	47.6	48.1	
胃検診	対象者数	72,111	73,179	73,528	74,223	75,991	
	受診者数	23,094	24,192	25,772	28,026	28,446	
	受診率	32.0	33.1	35.1	37.8	37.4	
大腸検診	対象者数	72,111	73,179	73,528	74,223	75,991	
	受診者数	19,523	20,798	22,289	24,115	25,239	
	受診率	27.1	28.4	30.3	32.5	33.2	
子宮がん検診	対象者数	85,782	87,133	87,762	88,705	53,306	
	受診者数	9,652	10,775	11,067	11,669	5,790	
	受診率	11.3	12.4	12.6	13.2	10.9	
乳がん検診	対象者数	85,782	87,133	87,762	88,705	37,031	
	受診者数	9,448	10,171	10,631	11,248	4,424	
	受診率	11.0	11.7	12.1	12.7	11.9	
肺がん検診	胸部X線	対象者	72,111	73,179	73,528	74,223	75,991
		計	13,032	16,631	19,933	20,890	20,558
		受診率	18.1	22.7	27.1	28.1	27.1
	(喀痰再掲)	計	557	687	889	1,007	977
骨粗鬆症検診	対象者数	17,450	16,842	17,152	17,803	17,692	
	受診者数	692	1,109	1,370	1,576	1,320	
	受診率	4.0	6.6	8.0	8.9	7.5	
歯と歯ぐきの検診	対象者数	1,362	1,394	926	995	847	
	受診者数	716	735	544	605	511	
	受診率	52.6	52.7	58.7	60.8	60.3	

【胃検診】平成10年度～(内視鏡検査)

【肺がん】個別検診対象者:平成13年度(40～64歳)、平成14年度(40～69歳)

【骨粗しょう症】対象者:平成8年度～(40歳以上の希望者)、平成10年度～(30歳以上の希望者)、平成12年度～(20～60歳の5歳節目)

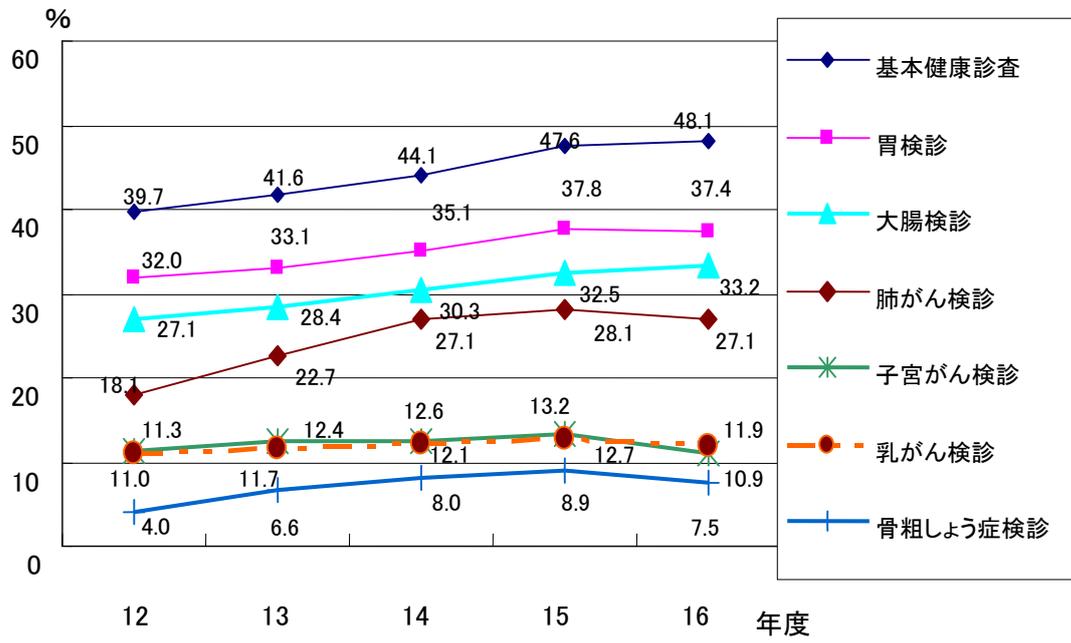
【歯と歯ぐきの検診】対象者:平成7年度～(40～60歳の5歳節目)、平成12年度～(20～60歳の希望者)、平成16年度～(20～70歳の希望者)

【子宮がん検診】平成16年度～(20歳以上の偶数年齢)

【乳がん検診】平成16年度～(40歳以上の偶数年齢)

〈資料:健康推進課〉

〈図 2-4-1〉 市民検診受診率の推移



〈資料：健康推進課〉